

# 南るもい 水稻技術情報

留萌農業改良普及センター南留萌支所

TEL : (0164) 42-8493 FAX : (0164) 42-4079

HP : <http://www.rumoi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index2.htm>



## ～幼穂形成期・冷害危険期の管理について～

### ◇現在までの気象・生育について◇

6月の気温は、最高気温が低かったものの最低気温が高かったことから、総じて平年並となりました。しかし、日照時間は平年の32.9%と、寡照傾向となりました。

普及センター調査ほの水稲の遅速は平年並に推移していますが、日照不足等により分けつの発生が緩慢気味な傾向にあります(平年比:73%)。

表1 7月1日現在の水稻生育状況

(留萌農業改良普及センター南留萌支所調査ほより)

|     | 草丈(cm) | 葉数(枚) | m <sup>2</sup> 当莖数(本/m <sup>2</sup> ) | 遅速 |
|-----|--------|-------|---------------------------------------|----|
| R2  | 40.7   | 8.8   | 414                                   | -2 |
| 平年値 | 44.3   | 8.9   | 568                                   | -  |

※品種:ななつぼし

### 【幼穂形成期の確認】～実際に確認してみましょう!～

- 生育が中位な株を選び、草丈の一番高い茎(主茎)を別々に2~3本採取し、茎の基部を縦半分にかッターやカミソリ等で切ります。

⚠ 生育が進みがちな畔周辺や、生育が遅れ気味な水口付近は避けましょう。

- 幼穂長が平均で2mmに達したときが、「幼穂形成期」になります(図1)。

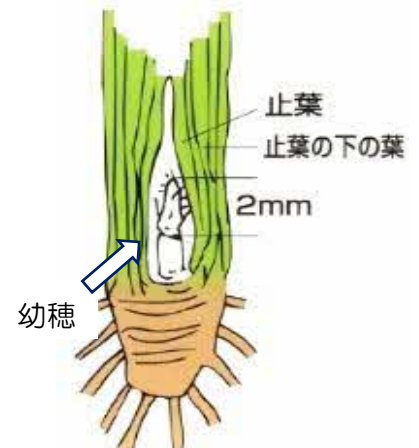


図1 幼穂形成期の確認

### 【水管理のポイント】～寒さから幼穂を守りましょう!!～

- 幼穂形成期の水管理の基本は、低温から幼穂を守ることです。幼穂の伸長に合わせて、水深を深めていきましょう。
- 深水管理時は、暗きよの水こうを閉じ、更に水尻から暖かい田面水が流れ出ないように落とし口を確実に止めましょう。
- 水温による保護効果を発揮するために、かけ流しにはせず日中の止水管理は徹底しましょう。
- 幼穂形成期に達したら中干しは行わないようにしましょう。また、中干し中に幼穂形成期を迎えた場合は、直ちに湛水状態に戻しましょう。

### 【深水管理に向けての準備】～準備は万端に!!!～

- 冷害危険期の深水かんがいを実施できるように、畦畔の崩れた部分や、漏水箇所、落とし口等を点検し、こまめな補修を行いきましょう。
- 水深測定板(水見板)を水口付近に設置し、水深管理の目安としましょう。

## 【前歴期間・冷害危険期の管理】～上手に管理しましょう！！！！～

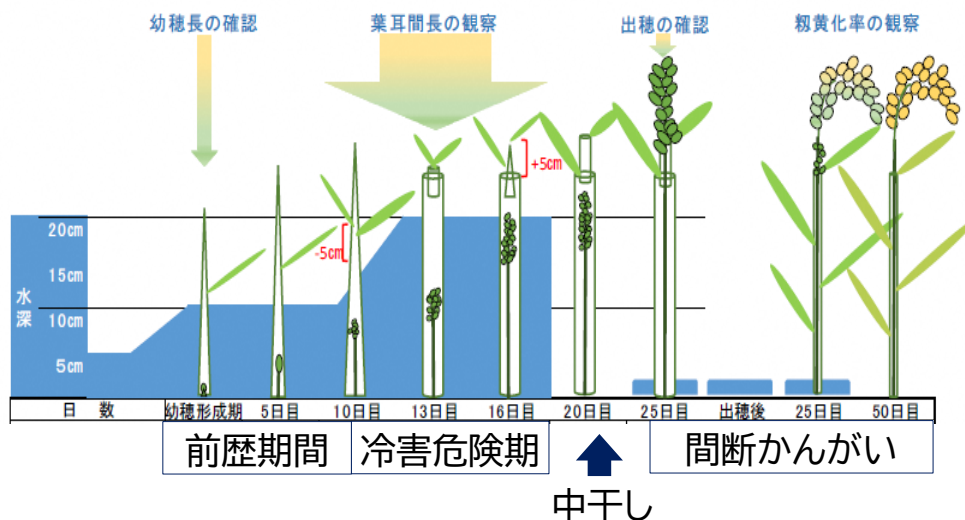


図2 幼穂形成期から冷害危険期までの水管理

≪前歴期間≫ 幼穂形成期から約10日間(花粉が作られる時期)

- 水深4～5cmから深水管理を開始し、1日1cm程度ずつ水深を深くし、1週間～10日間かけて最終的に10cmまで高めましょう。

△水深を一気に深くすると、水温が下がり逆効果になってしまいます。

☺ 気温が下がらないと予想され、茎数が少ない場合は、幼穂形成期から5日間程度の水深を4～5cm程度に保ち、分けつを促進させましょう。

- 入水は夜間から早朝にかけて行い、水温の低下を最低限に留めましょう。また、昼間は必ず止水にし、水温の維持・上昇を図りましょう。

△急激な天候変化に対応するため、天候が良くても必ず行いましょう。

≪冷害危険期≫ 幼穂形成期から10～16日目

- 冷害危険期に低温(耐冷性「強」の品種で15～17℃)に晒されると花粉の発育が不十分となり、不稔籾が多発し収量が低下してしまいます。

◎参考：ななつぼし…耐冷性「強」、  
ゆめぴりか…耐冷性「やや強～強」

- 水深は幼穂の発育に合わせて1日1～2cmずつ高め、目標最大水深18～20cmになるべく近づけましょう。

≪冷害危険期終了≫

- 全茎の80%が葉耳間長+5cmとなったら、冷害危険期の終了目安です(図3)。

(参考：概ね7月下旬頃)

- 危険期終了後は、出穂までの間に「中干し」や「溝切り」を実施しましょう。

☺詳細は前号を参考にしてください！

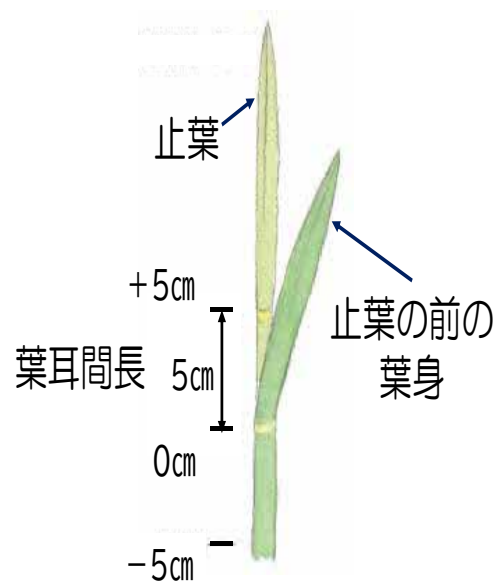


図3 葉耳間長